

渋谷のプラネタリウム

食品安全・品質保証コンサルタント 芝 弘 孝

かつて、渋谷にプラネタリウムがありました。天文博物館五島プラネタリウムという民間のプラネタリウムが東京・渋谷の東急文化会館という商業施設の中に存在していたのです。私が幼少期のころ、正確には1960年代前半から半ばにかけて、このプラネタリウムに行くのが好きでよく行きました。プラネタリウムに年何回も通って、北極星の見つけ方を習得したり、夏や冬の大三角形やオリオン座を知ったり、月の満ち欠けの原理を学んだり、東京ではきれいに見ることのできない天の川を見ながら織姫・彦星の話を聞いたり、音楽のタペでゆったりと寝そべて星空を眺めたりと様々に楽しんでいました。プラネタリウムは、東急文化会館の最上階である8階にありましたが、球形のドームが大きく屋上から突き出ている眺めが特徴的でお気に入りでもありました。

渋谷という街は、プラネタリウムだけでなく、私にとって様々なキラキラした街でした。当時、私にとってデパートといえば渋谷の百貨店ですし、少し大きくなると、渋谷は大型の書店と映画館がいくつもある情報と文化をキャッチする場所となりました。友達だけで映画を初めて見に行ったのも、同じく初めてお酒を飲みに行ったのも渋谷でした。

そんな渋谷も、今は100年に1度の大改造が行われていて、行くたびに街の姿がどんどん変わっています。私の通ったプラネタリウムは2001年に閉館となっていました。ところが、数年前に渋谷区文化総合センター大和田という公共施設に行く機会があり、そこで最新のプラネタリウムが設置されているのを発見しました。渋谷に今もプラネタリウムがあるのだとうれしくなりました。これだけ情報の多い時代、今の子供たちは、どの程度ワクワクしてプラネタリウムをみているのでしょうか。

館内に、かつて東急文化会館のプラネタリウムで活躍していた西ドイツカール・ツァイス社製のプラネタリウム投影機の実物が保存展示されていたのを見つけました。巨大なアリののような形をした投影機との約50年ぶりの対面に非常に懐かしく感激しました。その後、母親にスマホで撮った投影機の写真を見せたところ、祖父がドイツへ出向いて買い付けてきたものだと聞かされ、さらに何かのご縁を感じた次第でした。